

鹿児島に受け継がれる 冬の伝統行事

皆さんは鹿児島の伝統行事をご存じですか?鹿児島には古くから伝わる伝統行事がたくさんあります。 そこで今月は、この季節に行われる主な伝統行事を紹介します。内容や目的を理解し、これからも後世へ受け継いでいきましょう♪

七草祝

七草祝は子供の無病息災を祈る薩摩 藩時代からの伝統行事で、鹿児島を中 心とする南九州において1月7日に行 われている。数え年7歳を迎えた子ど もたちが、七五三のときのように着物 や袴で着飾り、隣近所や親戚の家7軒 を回って七草粥をもらいに行く。七草 粥をもらって食べると万病を追い払 い、健康に育つと伝えられている。

子どもは7カ月で歯が生え始め、7 歳で乳歯が生え変わるといわれ、この 時期は乳幼児から子どもへと成長して いく時期。7歳の子どもたちが七草粥を もらって回るのは、厄払いと今まで無事 育ったことへの感謝の意味もある。



春の七草を入れて炊いた粥。正月で疲れた胃腸をいたわる とともに、正月松の内に不足しがちな青菜の栄養を摂り、1 年の無病息災を願うために食べるといわれています。 ほとけのざ

鬼火焚き

鬼火焚きは、竹櫓とともに門松など の正月飾りを焼いて、火と竹のはじけ る音とで、祖霊とともに正月飾りにつ いてきた鬼(悪霊)を追い払い、その年 の無病息災を祈る鹿児島の伝統行事。 市内でも各地で行われている。

残り火で、餅を焼いて食べたり、竹 で作った燗で温めた焼酎を飲むと、そ の年の病を除くともいわれている。

またこの火にあたった後は、鬼がつ いてこないよう、後ろを振り返らずに 帰るのがよいといわれている。



中福良あいご会(郡山地域)の鬼火焚き

毎年参加しています!

前福貞あいご会では、毎年1月7日に鬼火焚きを行っています。 自治会の協力もいただきながら、年末の準備から地域のみんなで 取り組んでいます。

キャンプファイヤーの ようで、お菓子などの振 る舞いもあるので毎年楽 しみです♪

この地域での鬼火焚き は、戦前から行われてい るそうです。これからも 地域のみんなが元気であ ることを願いながら、こ の伝統ある貴重な行事 を受け継いでいきたいで



中福良あいご会(郡山地域)の子どもたち

破魔投げ-

破魔投げは800年の歴史を持つといわれる薩摩の遊戯。打毬と呼ばれる日 本の古い遊びから派生したといわれている。「破魔」と呼ばれる直径約6 cmの木の円板を、「ボット」と呼ばれる木の棒で1チーム4~5人が打 ち合う、西洋のホッケー競技のようなもの。江戸時代は武士の子弟だけの 遊びとして馬場(道路)で行われていた。

大正時代に道路取締令で馬場での破魔投げが禁止になり、一時は衰退し たものの、昭和38年に「鹿児島市破魔投げ保存会」が誕生し、毎年成人の 日に同保存会主催の大会が開催されている。



子どもたちの喜ぶ顔が楽しみ!

鎌倉時代、初代島津忠久の家臣たちが鎌 倉の遊戯を伝えたことが薩摩における破魔 投げの始まりといわれています。

近年、保存会では、小学校で破魔投げの 歴史を学んだり、体験する授業も行ってい ます。

チームが集まり、園児から80歳代の参加者 で盛り上がるんですよ。特に、ゲーム世代 といわれる子どもたちが「まだやりたい!」 と喜んでくれるのがとてもうれしいです

これからも破魔投げが受け継がれるよ う、頑張って活動していきます!



福留高八州さん (市破魔投げ保存会会長)

第51回破魔投げ大会

- ■日 時 1月12日(祝)9時~12時
- **■場 所** 甲突河畔市民広場
- **■**問い合わせ 市破魔投げ保存会224-0731

※参加は事前に申し込みが必要